会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回授業改善サポーター養成講座開発委員会 |
| 開催日時 | 令和5年7月27日（木）10:00～12:00 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 委　　　員：岡村　慎一、猪俣　昇、半田　純子、吉橋　大樹、遠藤　和彦、伊藤　宏一郎、栗林　直子　計7名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計8名 |
| 議題等 | 〇委員自己紹介〇委員会の目的、目標１）授業改善サポーターの人材像・「授業改善サポーター」の定義学内に指導力等の向上を牽引する授業コンサルテーションができる中堅教員を配置し、若手教員に対して適切なアドバイスやサポートを行い教育の質を向上させることができる人材。具体的には、授業の観察や評価、教員のカウンセリングやコーチング、授業改善に関するアドバイス、教員の授業計画や教材の開発支援等ができる。（猪俣）２）ヒアリングについて・授業改善サポーターと必要な資質・要件等を明確にすることを目的とする。専門学校5校程度（対面2、オンライン3校）の教員を対象とする。委員2名程度を派遣する。（猪俣）・8月21日14:00～15:00　オンライン　穴吹学園矢吹先生　⇒調査担当：半田、吉橋、伊藤・8月25日午前　国際動物専門学校東海林先生　調整中　⇒調査担当：栗林・8月28日10:00～11:00　対面　YIC情報ビジネス専門学校赤木先生・8月28日14:00～15:00　対面　麻生建築＆デザイン専門学校津嘉山先生　⇒調査担当：伊藤、飯塚・9月上旬　YIC京都ビューティ田澤先生　調整中・ヒアリングのサポート調査として、全専研会員校の教務課長クラスを対象としたアンケート調査も重ねて実施したい。サンプルフォーム公開。・ヒアリング項目、アンケート項目等は、8月2日までにSlackにて意見を上げてください。8月4日配信（猪俣）・ヒアリングについては、合田委員が主体となって質問していただき他の委員はメモを取るなどの役割か（半田）・記録はお願いしたい。また、補助的な質問などもしていただきたい。（猪俣）３）講座組み立て実施・11月上旬に東京で開催する予定としている。内容は調査結果を基に第2回目の委員会にて検討したい。（猪俣）４）リフレクション・12月中旬（対面）、1月中旬（オンライン）。対象者は暫定講座の受講者をターゲットとしたい。（猪俣）〇今後の活動スケジュール・ヒアリング調査　8下旬～9月上旬・第2回委員会　　9月（9月19～29日を候補日として調整する。）・暫定講座開発　　11月上旬・リフレクション　12月中旬（対面）、1月中旬（オンライン）〇その他・授業改善サポーターの定義に能力がいくつか定義されているが、これができる者を授業改善サポーターと定義するのか。また、インタビュー項目の中にこれらの能力を聞き取るための質問項目が適切に配置されているのか。（岡村）・インタビューの中身を要件に合わせて変更していく。（猪俣）・現在のインタビュー項目については、全体を包括的に聞いている内容にはなっていないように見える。（岡村）・インタビュー項目等については、合田委員と連携して一旦見直しをする。（猪俣）・授業改善できる・できない理由等を明確にしていくことが大事ではないか。（半田）・他の事業のアンケートについては8月17日に送ることとしていることは配慮してほしい。（飯塚）・8月10日を目途に調査内容を委員と調整することにします。8月20日ごろを目途にして、事務局から調査をリリースすることとしたい。（猪俣）・合田委員に調査の仮説があるだろう。授業コンサルティングについては重要であることはわかっている。授業改善ができない要因・原因などを引き出すインタビューをしていただくことが重要だと考える。そのそも、合田さんの頭の中にある理想像を可視化して委員と共有してほしい。（岡村）・アンケートはそもそもどのような目的なのか？ヒアリングはそもそも3年前の方々を対象とするものなのか（吉橋）・アンケートは現状把握。ヒアリングは３年前の受講者を対象として、授業改善の実態を把握する。（猪俣） |
| 配布資料 |  |

以上